

大東市の「GIGA スクール構想」の 実現に向けた取組みについて

GIGA スクール構想とは



Society5.0（超スマート社会）に求められる能力の育成に向け、子ども一人ひとりがインターネットにつながったパソコンを活用することで、それぞれの学習のニーズに合った学びを進め、「生きる力」を確実に育成できる教育 ICT 環境を整備するための計画のことをいいます。

この「GIGA スクール構想の実現」により、小・中学校の教育は大きな転換点を迎えます。これからの新しい未来を生きる子どもたちにとって、コンピュータ端末は、鉛筆やノートと並ぶ必要不可欠な道具となり、今後は、より一層学校教育と家庭学習(家庭教育)を連動させた教育が求められるようになります。

詳しくは、YouTube の「大東市教育委員会【公式】ちゃんねる」にて「GIGA スクール構想とは」というテーマでお伝えしています。右記の QR コードでご覧になれます。是非ご視聴ください。▶▶



GIGA スクール構想の実現で

め ざ す 教 育



大東市では、「だいとう教育ビジョン 2019」にもとづき、日々の授業づくりに取り組んでいます。めあてを提示し、個人思考・ペアやグループでの活動・全体共有・学びのふり返しなどの学習展開の中で、楽しくわかりやすい学習を追求しています。

今後、ICT を効果的に取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」をより一層推進していきます。そして、児童生徒一人ひとりの能力や適性に応じた学び（＝個別最適化）を保持するとともに、子どもたちどうしが学び合うことのできる授業をめざしていきます。

I C T って何のこと？

「Information and Communication Technology」の略で日本語訳は「情報通信技術」。インターネットなどの通信技術を活用してコミュニケーションをとることを意味します。



効果的な活用について

次のような学習を通して、子ども一人ひとりの特徴や実態に応じた学びの保障を実現します。

写真や動画などを用いて、自分の考えを分かりやすく示すことができます

教員が児童生徒の学習状況を把握して、きめ細やかな指導ができるようになります

一人ひとりに合わせたペースや内容で学習を進めることができます

デジタル教材とクラウド(※)環境を組み合わせることで、簡単に情報発信や情報共有をすることができます

遠隔地や他校との交流などといった学校の壁を越えた学習など、新しい学習の形が可能になります

(※) コンピュータで利用しているデータやソフトウェアをネットワークサービス経由で提供するもの

仲間と協同してワクワクする学びを



個人思考

子どもたち一人ひとりの反応を、タブレット型パソコンを通じて即時に把握でき、学習課題に対して個々に応じた声かけができます

ペア・グループ活動

タブレット型パソコンを用いて、一人ひとりの考えをお互いに共有することができ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができます

全体共有

タブレット型パソコンの画面を大型モニターに映し出し、自分の考えを視覚的にわかりやすく仲間に伝えることができます

学びのふい返し

自分の学びを学習履歴として保存することができます

タブレット型パソコンはあくまでも学ぶための手段。タブレット型パソコンを使うことを目的とせず、これまでの教育実践と融合させて一層の教育効果を生み出すことをめざします。

一人ひとりにタブレット型パソコンが貸与されるよ！大切に使ってね！



導入スケジュールについて

大東市のGIGAスクール構想の実現における整備について	導入機器	対象	11月	12月	1月	2月	3月	
	1人1台パソコン (小学校12校)	小学5・6年生(全児童分)		導入予定		活用開始予定		
		小学1・2・3・4年生(全児童分)				導入予定		
	1人1台パソコン (中学校8校)	中学1・3年生(全生徒分)		導入予定		活用開始予定		
		中学2年生(全生徒分)				導入予定		
端末保管庫(電源キャビネット)	小・中学校(20校)			導入予定				



保護者の皆様へ

今後の取り組みを見据えて、教育委員会ではインターネットを通じた学習がご家庭でも可能になるように準備を進めています。ご家庭におかれましても、教育委員会から貸与するモバイルルーターを含め、Wi-Fi環境を整えていただく準備をお願いいたします。

また、今後、お子様がさまざまな場面でインターネットに触れる機会が多くなることが想定されます。学校でも教育 ICT 環境の整備とともに、情報モラル教育の視点を高め指導いたしますが、ご家庭においても使用する時間や SNS 等の危険性についてお話する機会を持つなど、あらためてルールの確認をお願いいたします。

臨時休業等の

緊急時において

オンラインでコミュニケーションをとることができる“ライフライン”として“いつでもつながっている”という安心感を与えることができるように



感染症拡大や自然災害による臨時休業などの緊急時において、学校に登校できない場合には、教員が自宅にいる子どもと顔を見ながらコミュニケーションを図る方法として、Web 会議システムを活用することができます。子どもとの個別面談やホームルーム、オンライン学習など、さまざまな可能性があります。

